

# 光らせる 厳しい目

「福祉の島」と呼ばれた豊島は福祉の草分けでもあり、乳児院や特別擁護老人ホームなどの福祉施設が充実しており、人にやさしく安心して暮らせる地域であったことがうかがわれます。

一方、安平町内の酪農、農村地帯では乳牛が草を食み、牧場では仔馬が元氣よく走り回る光景を目にすることがあります。

## 安心が一変し不安に

「消費は美德」と言われたのは、昭和30年代以降の高度経済成長時代のことです。わたしたち日本人は、戦後の経済発展の中で、いつの間にか大量に購入して大量に捨てることになり、豊かさの証拠でもあるかのように考え始めました。そうした社会の中で起きた戦後最大級の不法投棄事件といわれた豊島問題は、これまであまり重要視されなかった廃棄物処理の問題を一気にクローズアップさせ廃棄物処理政策の見直しを行う引き金となったといわれています。

まず地域に住む方が環境について関心を持ち、対策を講じていくことが大切ではないでしょうか。

瀬戸内海に浮かぶ豊島は、古くから稲作が盛んで豊かなことから名前が付けられたといわれています。また豊島石の石材加工業で栄え、農水産物の供給地としても重要な地位を占める小島です。

家畜が健康で育つ環境は、人間にもやさしい場所といえるのではないのでしょうか。

誰もが望む安全で安心できる生活に対して、昭和60年に新築地区で事業を開始した産業廃棄物処理業者が新たにピット（投棄用の穴）の造成を計画。平成3年4月に行われた地元説明会では住民から違法廃棄物の不安や、排水や悪臭などさまざまな問題点が指摘され、双方の合意には至りませんでした。

自然や生活環境に恵まれていた豊島と旧早来町の新築、遠浅の人びとに不安を与える原因となったのが産業廃棄物問題でした。

当時の産廃を指導監督する行政機関である都道府県の対応の違いもありました。香川県では以下のとおりですが、北海道では道外からの産廃の受入れに対し厳しい方針を出



## 豊島問題（廃棄物対策豊島住民会議公式サイト参照）

香川県小豆郡土庄町。瀬戸内海の東部、小豆島の西3.7 kmの海上にある島で、面積14.49 km<sup>2</sup>、周囲18.0 km。人口1,120人、世帯数529戸（平成18年10月1日現在）。

この島に1978年から13年間にわたり、悪質な事業者と香川県がその業者を擁護し有害産業廃棄物が不法に投棄され野焼きされた事件です。1990年に兵庫県警が摘発し操業停止。50万トンを超える有害産業廃棄物が放置され、ダイオキシンを含む有害物質が瀬戸内海に流れ続けています。島民は1993年から国の公害調停を申請。立入り調査の結果、香川県が説明する3倍近い廃棄物が堆積され、極めて有害であることが判明しました。

「廃棄物認定の誤り」と「業者への指導監督の怠り」の過ちを犯した県に対して豊島住民は謝罪を求め、さらに産廃の中間処理業者に「無害化、完全撤退」「二次公害を出さない」「（廃棄物に対する）住民関与」の3項目を要求しました。

### ＜ダイオキシン＞

人工物質としては「地上最強の猛毒」といわれ、脂肪に溶けやすい性質を持ち他の化学物質や酸、アルカリとは容易に反応しない安定した物質です。体内でホルモンと似た働きをして、甲状腺や免疫機能を低下させることが報告されています。

